

美術

## (11) 美術

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実が図られるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 発想や構想について意見を述べ合ったり（表現）、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりする（鑑賞）学習活動など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 美術表現の可能性を広げるため、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディア・ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる工夫 (5) 表現の題材や材料などに、地域の身近なものや伝統的なものを取り上げているか。また、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財を積極的に活用したりすることが適切に示されているか等、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒一人一人が強く表したいことを実現できるよう、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒が自ら表現形式を選択し創意工夫することができるような、自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他教科や小学校等の学習を生かしたり、関係づけたりする学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題や安全への配慮

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
9 開隆堂	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとに、育成したい資質・能力を3つの観点(知・思・学の3つのマーク)に分け、「学習の目標」として明示している。また、「学習のポイント」で発想や構想のポイントを示し、主体的に話し合ったり検討し合ったりすることで深い学びへ導くよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P10)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を取り入れた鑑賞活動や、協力協働して活動する題材を取り上げたり、「学習のポイント」で話し合いの視点を示したりして、生徒同士のコミュニケーションや言語活動を深めるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕「ロゴマークで印象づける」(1年P40~41)、「安心と安全のデザイン」(2・3年P76~77)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの題材や資料に二次元コードが掲載されており、制作の手順やポイント、用具の安全な使い方や参考作例、動画、鑑賞に役立つ資料等を見ることができるようになっている。</li> </ul> <p>*総数 75</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器等を活用した作品例や使い方を学ぶ資料が掲載されている。</li> </ul> <p>〔例〕「形と色彩のメッセージ」(1年P36~37)、「映像メディアを活用する」(2・3年P110~111)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ページの入り口に「絵や彫刻で学ぶこと」「デザインや工芸で学ぶこと」「鑑賞で学ぶこと」と題する扉を設け、各分野の活動の意味や目的を考えられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P8~9)、2・3年(P8~9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての題材で「学習の目標」が明示されており、学習内容や工夫すること等が分かるようになっている。</li> </ul> <p>〔例〕「形と色彩のメッセージ」(1年P36~37)、「明かりの形」(2・3年P80~81)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地の伝統的な造形を具体的に取り上げ、生徒や学校の実態に応じた活動ができるようになっている。</li> </ul> <p>〔例〕「祭りの造形」(1年P50~51)、「生活に生きる伝統工芸」(2・3年P88~89)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩などの造形要素、表現技法や材料・用具などを生徒が活用しやすいようにまとめた「学びの資料」が各学年の巻末に設定されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P52~67)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材下部に関連する他教科等の内容が具体的に示されている。</li> </ul> <p>〔例〕技術・家庭科との関連「よみがえる材料」(1年P20~21)、社会科との関連「造形表現のパワー」(2・3年P52~53)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科と美術科につながりがあることを記した導入ページが設けられている。</li> </ul> <p>〔例〕「図画工作から美術へ」(1年P4)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現」中心の題材であっても、最初に鑑賞活動を提示し、生徒が主体的に作品を鑑賞したり、対話が生まれたりするような問いが示されている。また、「表現」「鑑賞」をアイコンで示し、学びの流れが一目でわかるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P10～13)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と意見交換をしながら作品を作る様子や、作者の思いや制作意図を伝える「作者の言葉」を掲載する等、生徒のコミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を図るよう配慮されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P42)、2・3年(P46)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像メディアの活用に関する資料が掲載されている。</li> </ul> <p>〔例〕「写真や映像を撮影する」(2・3年P78～79)、「映像で広がる世界」(2・3年P80～81)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の随所に二次元コードを示し、技法動画や鑑賞の音声ガイドの他、360度動画、生徒作品等を見ることができるようになっている。</li> </ul> <p>*総数 44</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての題材で「目標」が示されており、身につける力や学習のねらいが明確に伝わるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の内容に応じて、「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と領域を明記し、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」という分野ごとに構成することで、生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P10～13)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本各地の伝統工芸や世界遺産を紹介したり、文化財を大きく掲載したりするなど、日本の伝統文化への理解が深まるよう配慮されている。また、題材で適宜工芸品を取り上げるとともに、国宝に指定されているものについては、作品名に「(国宝)」と添えて示されている。</li> </ul> <p>〔例〕「風神雷神」(1年P30～37)、「日本の伝統工芸」(2・3年P97～99)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現中心の題材では、発想や構想の手立てを「みんなの工夫」で示し、生徒の写真やアイデアスケッチ等を掲載することで、具体的にどのように発想を練っていくのかがわかるよう配慮されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年(P24)、2・3年(P8)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術での学びが他教科等とどう関連するのか、実感をもって理解することができるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕数学科との関連「エッシャーの敷き詰め模様」(1年P43)、国語科との関連「コピーを考える」(2・3年P59)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科と美術科のつながりを解説する導入ページが設けられている。</li> </ul> <p>〔例〕「美術って何だろう？」(1年P2～3)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとに、育成したい資質・能力の3つの観点（専用のマークを使用）を「学びの目標」として明示している。また、「造形的な視点」で生徒に気づいてほしい点を示すよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕1年（P12～13）</p> <p>●着眼点(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想や構想、鑑賞等、様々な場面で生徒同士がコミュニケーションをとりながら造形活動を行う様子が紹介されている。</li> </ul> <p>〔例〕「見方や感じ方を広げよう」（1年 P26～27）、「仲間との交流の中から」（2・3年下 P14～15）</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を使って表現や鑑賞をしている様子を掲載したり、ICT機器の活用例が示されたりしている。また、「学びを支える資料」では、写真の撮影方法や動画の作り方について説明されている。</li> </ul> <p>〔例〕「構図に思いをのせて」（2・3年上 P18～19）、「動きを生かして印象的に」（2・3年下 P40～41）</p> <p>〔例〕「学びを支える資料」（2・3年上 P55、2・3年下 P57）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜掲載された二次元コードにより、立体作品を拡大したり、360度様々な角度から鑑賞したりできるようになっている。</li> </ul> <p>*総数 47</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの目標」や活動、内容をイメージできる「サブタイトル」を掲載し、これから取り組む内容を把握し、見通しを持って活動できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>〔例〕「印象に残るシンボルマーク」（1年 P44～45）、「人が生きる社会と未来」（2・3年下 44～45）</p> <p>●着眼点(5)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭に作品を持ち帰って使うなど、地域の方と協働して活動する等の事例が掲載されている。</li> </ul> <p>〔例〕「折って、切って、巻いて」（1年 P46～47）、「さまざまなアートに触れよう」（2・3年下 P50～51）</p> <p>●着眼点(6)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の個性を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を養うことができるよう各巻の巻頭にオリエンテーションを設定するとともに、生徒へのメッセージや美術で何を学ぶかを伝えるための「この教科書で学ぶみなさんへ・目次」を掲載している。</li> <li>・生徒の主体的な活動をサポートできるよう、題材に関する資料を、技法・色彩・鑑賞に分けて巻末に掲載している。</li> </ul> <p>〔例〕1年（P58～75）</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学びの広がりや知識のつながりを大切にされた事例や題材が取り上げられている。</li> </ul> <p>〔例〕社会科との関連「美のタイムトラベル」（1年 P28～29）、保健体育科との関連「動きを生かして印象的に」（2・3年下 P40～41）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科での活動を振り返りながら、中学校3年間の美術科の学びをイメージするページが設けられている。</li> </ul> <p>〔例〕「中学校美術の世界へようこそ」（1年 P6～7）</p>

## 2 使用上の便宜

項目	発行者の 番号・略称	総ページ	(1)内容別配当の分量						(2)教材・資料等の分量						
			A表現		B鑑賞	その他			総題材数 (点数)	生徒作品 (点数)	生徒作品 以外の作品 (点数)	資料 (点数)	手立 て(提 示箇 所)	発 想 や 構 想 の ヒ ン ト ・	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
			絵 や 彫 刻 な ど	デ ザ イ ン や 工 芸	鑑 賞	材 料 と 用 具	形 と 色	そ の 他							
9 開隆堂	1年	68	14	12	25	13	3	1	32	64	110	315	38	—	
	2・3年	124	22	28	61	10	2	1	57	84	349	284	59	—	
38 光村	1年	82	8	7	45	16	5	1	34	58	164	420	30	○	
	2・3年	106	12	8	71	10	4	1	46	64	332	293	52	○	
116 日文	1年	76	7	7	49	7	5	1	39	110	119	377	43	—	
	2・3年上	66	6	6	48	3	2	1	32	88	184	173	32	○	
	2・3年下	62	6	6	47	2	0	1	30	61	106	100	28	○	

### (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4変型判、2分冊構成</li> <li>・堅牢性を考慮した、糊付け、見返し付きの製本で、表紙はビニール加工である。</li> <li>・特別支援教育及びカラーユニバーサルデザインの観点から、配色や形状、イラストや写真の配置などが工夫されている。また、ユニバーサルデザインフォントを採用するとともに、読みやすさへの配慮から改行位置も工夫されている。</li> <li>・化学物質に過敏な生徒への配慮として、植物性インキを使用している。</li> <li>・1年の最初に導入ページが、2・3年の最後に未来へ向かうページが配され、中学校生活の前後とのつながりや3年間のつながりを確認できるよう構成している。</li> <li>・巻末の「学びの資料」を必要に応じて確認・参照できるよう構成している。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4判、2分冊構成</li> <li>・用紙はコート紙を使用している。また、題材に応じて版画紙風の用紙やトレーシングペーパーを綴じている。</li> <li>・特別支援教育及びカラーユニバーサルデザインの観点から、図版どうしの間隔をあけたり、罫線を引いたりして、境界を区別しやすくしてある。</li> <li>・必要に応じてユニバーサルデザインフォントを採用している。</li> <li>・どの題材も「鑑賞」から始まり、一つの題材の中で「表現」と「鑑賞」が一体的に学べる共通の構成となっている。</li> <li>・巻末の「学習を支える資料」には、材料と用具や【共通事項】に関わる資料をまとめて掲載し、必要に応じて確認・参照できるよう構成している。</li> </ul>
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4変型判、3分冊構成（2・3年を上下2分冊構成）</li> <li>・軽量化した再生紙（コート紙）を使用し、表紙は耐水性コーティングとなっている。</li> <li>・カラーユニバーサルデザインの観点から、文字と背景のコントラスト等が工夫されている。また、題材名、主文はユニバーサルデザインフォントを採用している。</li> <li>・化学物質に過敏な生徒に対する配慮として、植物性インキを使用している。</li> <li>・全3分冊構成であるため、総題材数が多くなっている。また、1年には「美術との出会い」のページが、2・3年下の終わりには「明日への巣立ち」のページが設定されており、中学美術の入口と出口を意識した構成となっている。</li> <li>・巻末に、「学習を支える資料」を「技法」「色彩」「鑑賞」に分けて掲載し、必要に応じて確認・参照できるよう構成している。</li> </ul>

## 3 その他

	今日的課題や安全への配慮
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SDGsロゴ」（2・3年P63）を掲載し、SDGsの考え方を紹介している。また、「リノベーション、使い続ける工夫」（2・3年P102～103）を設け、環境や共生について学習を深められる構成となっている。</li> <li>・「安心と安全のデザイン」（2・3年P76～77）では、津波浸水深サイン（大阪市西区）の事例等を取り上げながら、デザインの視点から身近な場所の安全性を考えたり、危険について注意を促したりする学習を設定している。また、「美術の力を生かして社会とかかわる」（2・3年P92～93）では、東日本大震災に見舞われた中学生・高校生がパリで東北地方の魅力を世界にアピールするイベントをつくるプロジェクトを取り上げ、その活動の中で、思いを伝えるためのアイデア、伝達の方法、思いを形にする力など、美術で学んだ力を生かして活動したことが紹介されている。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「木と親しむ暮らし」（1年P54～55）、「メッセージを伝える」（2・3年P56～59）など、環境や地域文化・伝統文化、平和や人権問題をテーマとする題材や作品を取り上げ、SDGsの視点に配慮されている。</li> <li>・「心安らぐ場をつくる」（2・3年P74～75）で、自然災害後に復興に向けて地域の人々のために作られた建物等を紹介し、デザインの役割や働きについて見方を深める学習を設定している。また、「気仙沼市震災復興計画」のシンボルマーク（1年P46）や「木のキーホルダー onagawa fish」（1年P73）など、東日本大震災からの復興に関わるデザインや作品を取り上げている。「わかりやすく情報を伝える」（2・3年P60～61）では、津波から命を守るデザインを紹介し、防災意識を高められるよう配慮されている。</li> </ul>
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その一枚が人を動かす」（2・3年上P40～41）では、形と色彩で象徴的に表現したポスターデザイン例として、「SDGsポスター」を取り上げるとともに、平和や環境問題を取り上げた作品を紹介している。また、「デザインで人生を豊かに」（2・3年上P46～47）では、貧困や厳しい自然環境、障害などにより生活に困難さを持つ人々の課題を解決する美術の力について考える題材が設定されている。</li> <li>・「美術館へ行こう」（1年P74～75）では、宮城県の「リアス・アーク美術館」の震災からの復興を願った展示の様子を、「ひと目で伝えるための工夫」（2・3年上P38～39）では、津波や避難場所のピクトグラム等を掲載し、防災への考えが深められるよう工夫されている。</li> </ul>